

令和4年度 総社市立秦小学校 学校評価書

学校経営目標	具体的計画	令和4年度の評価基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 確かな学力の向上と定着	①学習規律を明確にするとともに学習の基盤となる「学ぶ姿勢」を確立し、基礎・基本の確実な定着を図る。 ②授業づくりの基礎・基本を踏まえた授業実践を行う。 ③ICTの効果的な活用をする。 ④家庭学習の定着について、家庭と連携して指導を行う。	・授業の内容がよくわかるという回答が85%以上である。 【児童】 ・学校は子どもたちが学習内容がよくわかるように指導しているという回答が85%以上である。【保護者】 ・子どもたちが授業内容の理解が図れるよう指導工夫をしているという回答が90%以上である。【教職員】 ・総社中学校区の標準学力調査で各学年の平均正答率が全国平均を上回る。	・児童 86% ・保護者 90% ・教職員 100%	A	・校内研究では「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に取り組んでいる。2学期には各学年で研究授業に取り組む予定にしている。主体的・対話的な授業へと改善していくことでより一層「よくわかる授業」の実現を目指す。 ・一人一台端末を有効に活用できるように、授業に積極的に取り入れていく。	・児童 89% ・保護者 96% ・教職員 100% ・実施採点中	A	・中間期から比べると肯定的回答が増えた。学習規律を守り、落ち着いた雰囲気での学習に望めていることが大きな要因と考えられる。ただし、10%程度は否定的意見があるので、さらに授業改善を行い、学習内容の定着が図れるように指導していきたい。 ・一人一台端末の利用については児童が文房具の一つとして利用する習慣が定着してきている。今後はさらに授業において効果的な利用法について教職員間で研修を行っていく。	A
		・家での勉強(宿題・家庭学習)をがんばっているという回答が85%以上である。【児童】 ・お子さんは、家での勉強(宿題・家庭学習)をがんばっているという回答が85%以上である。【保護者】 ・子どもたちが家庭学習に取り組めるよう指導しているという回答が85%以上である。【教職員】	・児童 95% ・保護者 94% ・教職員 100%	A	・家庭学習の時間を確保するとともに学校で学習したことが確実に定着できるように家庭学習の手引きを作成し、学校全体で計画的に取り組んでいく。 ・グループ自主学習に取り組み、児童同士で自主学習の質的向上を図るとともに保護者にも自主学習の取り組みについて理解を深めていく。	・児童 92% ・保護者 87% ・教職員 100%	A	・2学期中旬から実施しているグループ自主学習は自分で課題を設定したり、効果的な表現方法を工夫したり、自主学習の質を高めるのに効果的だった。学年ごとに廊下に掲示し、他学年や他グループの自主学習も参考にできるようにした。 ・普段の課題や長期休業中の課題等を学校全体で計画的に取り組んでいる。学習の手引きはまだ作成できていないが、家庭学習の時間のめあすは保護者に伝え、協力を依頼している。	A
2 優しさと思いやりのある児童の育成	①互いを尊重し合い、支持的風土のある学級集団づくりに努めるとともに、自己肯定感を高める。 ②特色ある学校行事や異年齢集団活動による交流活動を充実させ、集団への所属感を高め、友達や自分のよさを感じる温かい人間関係づくりに努める。 ③あいさつ、掃除、言葉遣いなどの基本的な生活習慣の徹底を図る。	・友達の気持ちを考えて、だれとでもなかよくしているという回答が80%以上である。【児童】 ・アセスの学校適応感を4.0以上になる。【児童】 ・学校が楽しいという回答が80%以上になる。【児童】 ・学校は、子どもに思いやりや助け合いの心を育てようとしているという回答が80%以上である。【保護者】 ・子どもに思いやりや助け合いの心が育つように指導しているという回答が80%以上である。【教職員】	・児童 95% ・7月アセス 4.01 ・児童 90% ・保護者 98% ・教職員 100%	A	・学級活動や帰りの会等で活動の振り返りを行う中で、互いの良さを認め合える場を積極的に設け、児童同士が伝えあうことで自己肯定感や集団への所属感を高めていく。 ・コロナ禍のためできなかった異学年でのピアサポート活動等が再開し、活動の中で上学年が下学年を優しくサポートする場面をよく見かけた。新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら積極的に活動に取り組む、下学年への接し方や互いの気持ちの交流を図り、思いやりと助け合いの心が育つように取り組んでいく。	・児童 92% ・7月アセス 4.01 ・児童 95% ・保護者 95% ・教職員 100%	A	・人権週間では「幸せのバケツ」運動に取り組み、友達の良いところをみんなに伝えあう活動に取り組んだ。友達の良さをたくさん見つけることができた。継続して帰りの会等でも一日の活動を振り返り、互いの良さを認め合える場を積極的に設け、自己肯定感や集団への所属感を高めることができた。 ・異学年でのピアサポート活動では、相手の気持ちを考えながら楽しく活動するにはどのようにすればよいか接し方や声のかけ方などを工夫しながら取り組んだ。異学年でのピアサポート活動を通して学んだことを今後は同学年でのピアサポート活動にもつなげていきたい。	A
		・元気よくさわやかなあいさつをしているという回答が90%以上である。【児童】 ・お子さんは、元気よくさわやかなあいさつをしているという回答が85%以上である。【保護者】 ・子どもたちが元気よくさわやかなあいさつができるように指導しているという回答が90%以上である。【教職員】	・児童 94% ・保護者 85% ・教職員 100%	A	・朝正門で登校班別に元気よくあいさつをする習慣を継続して実施していく。また、下校時も担任等を中心に元気よくあいさつして下校できるように声掛けをおこなっていく。 ・運営委員会を中心に児童主体のあいさつ運動を計画し、実施していく。	・児童 91% ・保護者 84% ・教職員 94%	B	・運営委員会を中心に朝各教室であいさつをしたり、昼の放送であいさつができていない児童を賞揚したりする活動をした。また、日中に廊下ですれ違った時の会釈等の指導も各学年の実態に応じて行い、できるようになってきている。 ・家庭や地域でのあいさつはまだ十分にできていない。保護者や地域の方にも児童に積極的にあいさつをしていただき、あいさつすることが当たり前前の風土をつくっていききたい。	A
3 地域に開き、地域から信頼される	①地域の教育力(教育資源・人材)を生かした学校運営を行う。 ②地域への積極的な情報発信(学校だより、ホームページ等)を行う。	・学校は、家庭や地域に積極的に情報発信を行っているという回答が80%以上である。【保護者】 ・家庭や地域に積極的に情報発信を行っているという回答が80%以上である。【教職員】	・保護者 96% ・教職員 84%	A	・行事を中心に定期的に学校だよりを発行し、学校内の様子を伝えていく。 ・定期的(週1回)にホームページを更新し、学校内の様子を発信していく。 ・学校地域協働本部のコーディネーターと連携を密にし、環境整備活動や児童の見守り活動等の依頼や見直しをする。	・保護者 95% ・教職員 75%	B	・大きな行事や活動等があれば学年だよりを発行している学年もあった。 ・ホームページには行事等の活動を掲載したが、タイムリー(直後)にならないときがあった。タイムリーに活動の様子を掲載し、保護者や地域にもホームページを見てもらうように広報する。	B
4 総社中学校区「まさきプラン」定着と充実	①あいさつやメディアコントロール、生活習慣定着の取組を定期的に行う。 ②保護者の積極的なかわりを啓発する。	・よいと思ったことはまず行動にうつしているという回答が80%以上である。【児童】 ・学校が楽しいという回答が80%以上になる。【児童】 ・しゃきつと週間の項目がほぼ守れたという児童が60%以上である。【児童】	・児童 93% ・児童 90% ・しゃきつと 74%	B	・総社中ブロックで取り組んでいるしゃきつと週間では、「就寝時刻」と「メディアの時間」が守れなかった。特に「メディアの時間」は5月に比べて下がっている。保健だより等でしゃきつと週間の結果を知らせるとともに、メディアを使わない家庭での過ごし方について学校だけでなく、各種委員会からも提案できるように取り組んでいく。	・児童 90% ・児童 95% ・しゃきつと 77%	A	・生活しゃきつと週間の取り組みでは、「起床時刻」「朝食の摂取」については、守れている家庭が多い。「起床時刻」については、年間を通して改善が見られてきた。「メディアの使用」については中間期より改善はしてきた。来年度も継続して学校保健員会(すこやか委員会)やPTAの研修、学級懇談会等の機会を利用して、生活しゃきつと週間の取り組みを啓発していきたい。特に「メディアの使用」については、正しい利用の仕方や家庭でのルールづくりの研修の時間をもちたい。	A